

那珂川町の文化財Ⅴ

—山田西遺跡の調査—

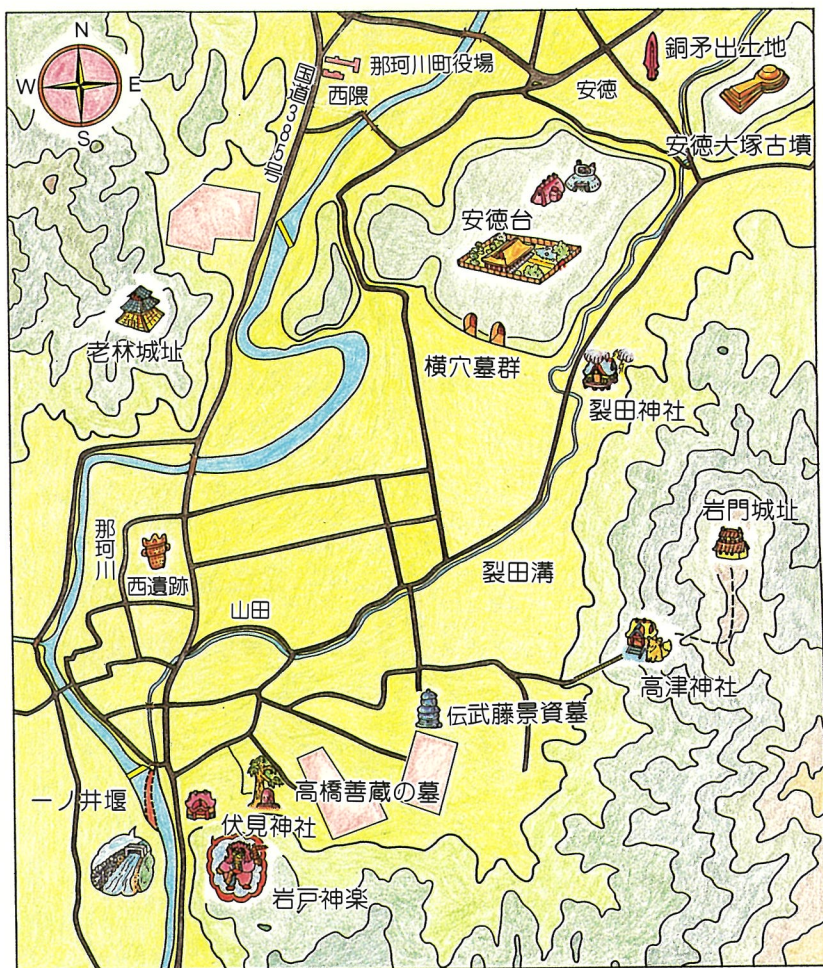
1993年

那珂川町教育委員会

はじめに

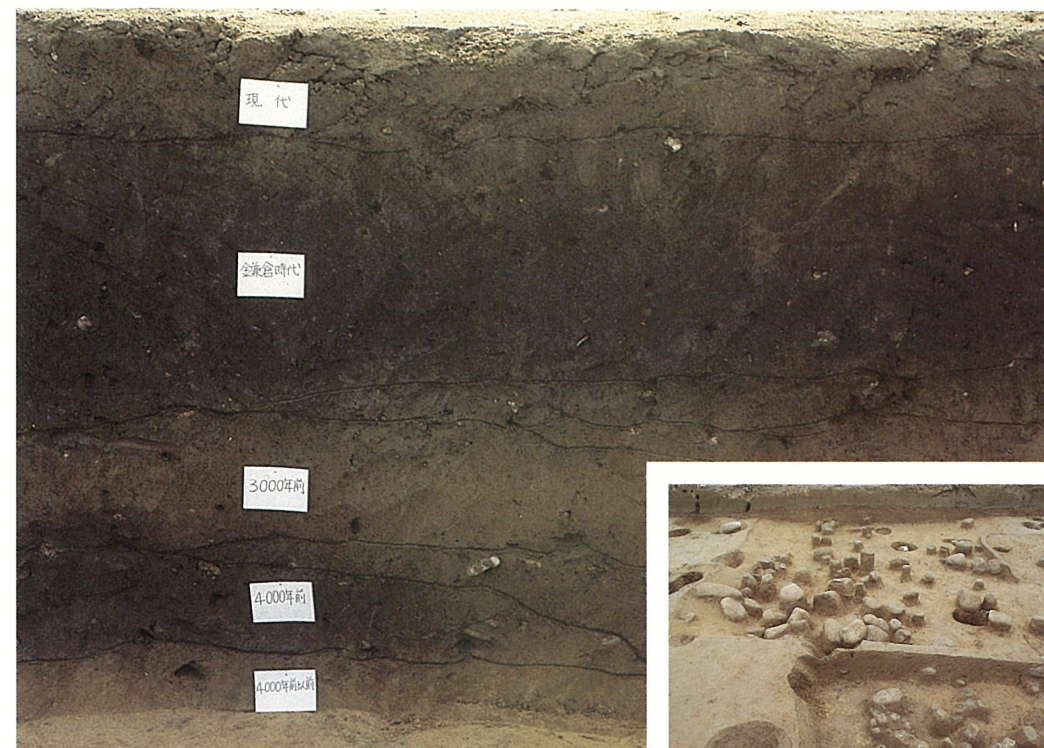
この遺跡は道路工事に先だって調査を行ったもので、大字山田字西に所在することから、字名を取って山田西遺跡と名付けました。

山田では、今まで一度も発掘調査が行われたことがなく、ここにいったいどうい
う遺跡が眠っているのかまったくわかりませんでした。ただ、東にそびえる岩門城
の城下町が山田にあったという記録が残っており、もしかすると、それに関係があ
る遺跡があるのではないかと考えていました。調査の結果、意外にも縄文時代晩期
(約3,000年前)の村の跡や後期(約4,000年前)の土器や石器が大量にみつかりま
した。ここでは、発掘調査で見つかった縄文時代の西遺跡を紹介します。



遺跡の場所

縄文時代とは



西遺跡の土層

住居内に散乱する川原石

今から約10,000～2,300年前を縄文時代といいます。縄文とは、この時代の土器に縄目の文様が多く見られることから付けられた名前です。それまでの旧石器時代と同じように、狩りをしたり植物を採って暮らしていた人々は、「土器」という大発明をします。土器を使うことにより煮たきができるようになり、水や物を貯えることもできるようになりました。煮た貝を干して保存食料にしたのでしょうか、この時代になると各地でさかんに貝塚が作られ始めます。しかし、以前に比べ食料事情が良くなったとはいえ、人々のお腹を満たすほどのものではなかったようです。このことは、あく抜きをしなければ食べることができないドングリやトチの実を食べる技術が生み出されることからわかりますし、次の弥生時代、大陸から米作りが伝わると、その技術がまたたく間に、日本各地へ広がっていくことからうかがえます。また、自然災害も多かったようです。上の写真は西遺跡の土層の写真ですが、どの層も砂の層や川原石が入り込んでいて、なんども那珂川が洪水をおこしたことがうかがえます。この集落も那珂川の洪水で被害を受けたのかもしれません。

西遺跡の人々の住まいと暮らし



山田西遺跡の集落のようす

縄文時代の人々は、猪や鹿などの動物を捕ったり、ドングリや山芋などの植物を採って暮らしていました。ですから、食料が少なくなると新たな獲物を求め移動していたようです。これは米作りが始まる次の弥生時代には大きな村が現れるのにたいし、この時代の村は規模が小さく点々としていることからもうかがえます。

今回の調査で、西遺跡からは7軒の住居跡が発見されました。住居の形はほとんどが方形をしています。大きさは様々ですが、どの住居からも火をもやした跡は見つかっていません。これは、煮たきなどが屋外で共同で行われたことを意味するものかもしれません。住居群の中心に建てられている5号住居跡からは、丁寧に磨か



2号炉跡

魚をとったり、木を切り倒し家などを建てたりしていたことでしょう。道具のなかで一番種類が多いのが石器ですが、この石材は遠く佐賀県の伊万里市や多久市にしかありません。人々は良い道具を作るため、苦労して運んできたのでしょう。遺構は住居の他に炉や貯蔵穴などがあります。炉には屋根がかけられており、なんらかの作業場として使われたようです。貯蔵穴は収穫したドングリなどの木の実を貯えたもので、必要に応じあく抜きなどをして食べていたのでしょう。また、炉での作業や食べ物を集めたりする作業は、共同で行われたものと思います。これは、炉や貯蔵穴の数が、住居の数に比べ少ないことからもうかがえます。



5号住居跡

れた十字型石製品が出土しました。使い方はよくわかっていませんが、祭祀などの特別なことに使われたものではないかといわれています。このように丁寧な作りをしたものは、北部九州で初めて見つかりました。

さて、人々の暮らしを教えてくれるのが、調査で発見される遺物や遺構です。西遺跡から発見された遺物は矢尻、石錘、石斧、土器類、紡錘車などがあります。人々はこれらの道具を使い狩りをしたり、那珂川で



十字型石製品

一部が折れていますが、もともと十字型をしているのでこの名がつきました。蛇紋岩という石で作られています。

いろいろな道具



深鉢



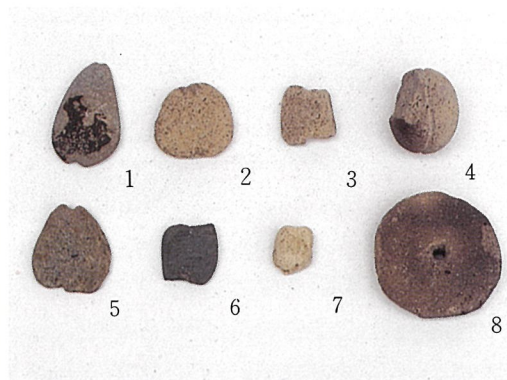
浅鉢



高坏

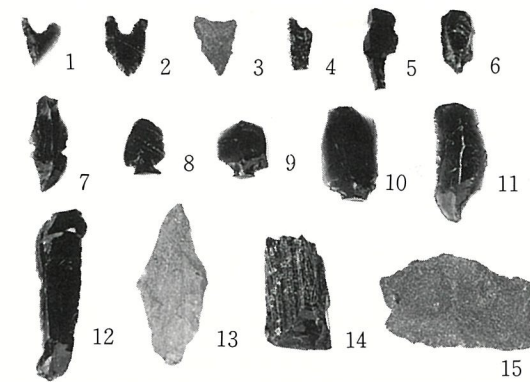
土器

深鉢は物を貯えたり、物を煮たりするのに使われたもので、その証拠に、外面にはススが付いたものが見られます。浅鉢は粉をこねるのに使われたもので、表面はていねいに磨かれています。高坏は食べ物を盛るのに使われたもので、貝ガラやヘラなどで様々な文様を描いています。文様には、いったいどんな願いが込められているのでしょうか。



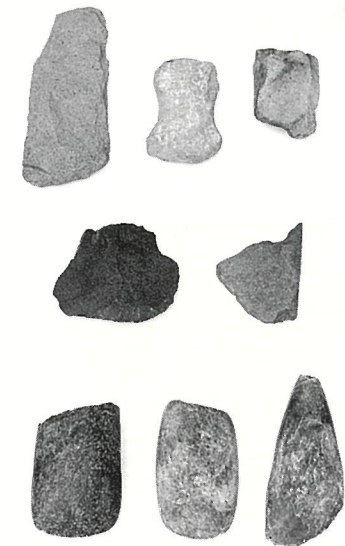
石锤と紡锤車

1～7は魚を捕るときに使用したあみのおもりで、石锤（せきすい）といいます。丸い石を磨いて作ったもの(4)と、たいらな河原石を加工して作ったものがあります。8は紡锤車（ぼうすいしゃ）といい、糸をつむぐときに使用したものです。



さまざまな石器

石器は、それぞれ用途に適した形に作られています。1～4は矢の先に付けた矢尻（やじり）で、7は矢尻を作る前、8～10は矢尻を作った残りの石片です。5は錐（きり）です。14は石核（せっかく）といい、石器はこの石からはぎ取られた薄い破片を加工して作られます。他は動物の皮をはいたり、肉を刻んだりするときに使われた石器でスクレイパーといいます。



石斧

石斧（いしおの）には打製のものと磨製のものがあります。木の伐採や土を掘るために使われました。

さいごに

今回の調査で発見された縄文時代の遺構は、すべて晩期のものです。西遺跡全体を調査していないので村の大きさはわかりませんが、この時代の集落やあく抜きに使う灰を作ったと思われる炉跡は、まだ、九州では発見されておらず、当時のことを知るうえでとても貴重な発見となりました。

西遺跡からは、縄文時代の遺構のほかに、平安時代の終わり頃の竪穴式住居をはじめ、鎌倉時代の遺構が多く発見されました。これは、はじめにふれた岩門城と同じ時代のものです。岩門城は太宰府や博多を守る重要な役割を果たした山城で、鎌倉時代、元の大軍が攻めてきたときには、日本の総大将の居城でもありました。また、山田には現在でもスワノ町、長手町、馬場、茶屋など、当時、山田が城下町だったことをしのばせる小字名が各所に残っており、今回発見された遺構も、その一角を示すものではないかと考えています。

那珂川町の文化財 V

—山田西遺跡の調査—

1993年

発行：那珂川町教育委員会

福岡県筑紫郡西隈64-1

印刷：瞬報社写真印刷株式会社

写真 西遺跡から見た山田

